

特集

リターナルびんが よりスムーズに循環するために

びんの3R推進の一環として、 モデル事業でリユースの方向性を探る。

当協議会が環境省と経済産業省の委託を受け、
リターナブルびんに関するモデル事業を実施。

ガラスびんの3Rの中で、リデュースとリサイクルについては、容器包装リサイクル法の施行とともに成果が上がっていますが、リユースされるびんの流通量については減少傾向が続いています。その原因のひとつとしては、消費者のライフスタイルの変化等に伴い、確立されていたリターナブルびんの流通システムが縮小してきていることがあげられます。

このような状況において、昨年度、当協議会では環境省と経済産業省の委託を受け、リターナブルびんの普及と回収を促進させるためのモデル事業を実施。小売酒販店においてリターナブルびんの普及キャンペーンや宅配システムの実証実験を、また市町村においてリターナブルびん分別収集の効果と効率性の調査を行いました。

リターナブルびんの啓発活動を続けることで、
リユースの可能性がさらに広がる。

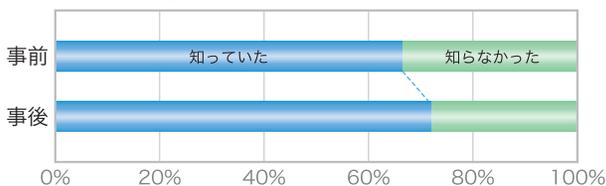
小売酒販店を対象にしたモデル事業では、長年にわたりリターナブルびんの普及啓発に取り組んできた茅ヶ崎市の酒販組合を中心に展開しました。また市町村によるリターナブルびん分別収集の効果・効率性の調査は、分別収集の方法を工夫している4つの自治体(神奈川県大和市・目黒区・那覇市・京都市)において実施しました。

その結果として、リターナブルびんが環境面で優れていることや自治体の定めるリターナブルびんの収集方法を消費者にきちんとPRすることにより、効果があがることが実証されています。モデル事業ということで、短期的な啓発となりましたが、この活動を継続していくことにより、リユースの可能性がさらに広がることが期待されます。

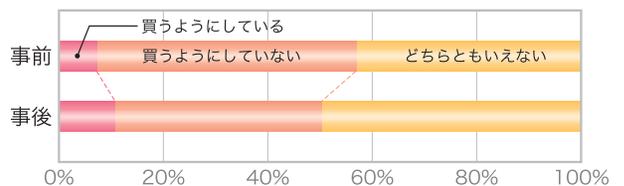
リターナブルびんの広報活動による変化

調査期間：2006年12月中旬～2007年2月上旬

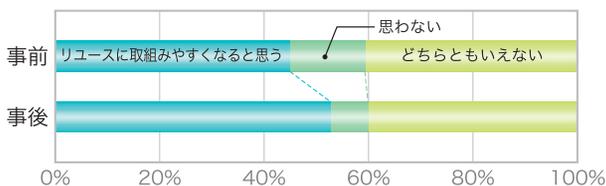
①「リターナブルびん」という言葉への認知度変化(茅ヶ崎市)



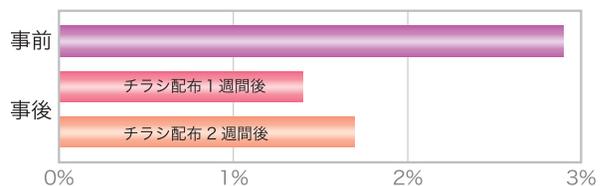
②商品購入時におけるリターナブルびん選択の変化(茅ヶ崎市)



③宅配のびんリユースの寄与度評価の変化(茅ヶ崎市)



④回収リターナブルびんの不良率の変化(那覇市)



①②③：インターネットで無作為に抽出した茅ヶ崎市民男女各70名へのアンケート調査による ④：那覇市からびん商が引き取ったリターナルびんの不良率

特集 リターナブルびんがよりスムーズに循環するために

目指すは、リターナブルびんの普及、回収促進、品質向上。

小売酒販店におけるリターナブルびん促進モデル事業

リターナブルびん促進キャンペーンで、効果的に消費者の関心を喚起。

茅ヶ崎市のモデル事業では、ポスターやチラシ、プレミアムグッズの配布などにより、リターナブルびんを積極的にアピールし、下記のようなリターナブルびんの販売・回収結果が得られました。

店頭販売においては、びんの種類により回収率に差が見られるものの、醤油びんやビール大・小びんについては、96%以上の高い回収率でした。キャンペーンを実施した販売店へのアンケートによると、参加した店舗の70%が「来店客の関心を喚起できた」と回答。ポスターやチラシによる告知が効果を上げたようです。ポイントカードのプレミアムとして配布したオリジナルバッグに対する顧客の印象については、76%が「好評だった」と回答。話題性のあるキャンペーンで、効果的に消費者の関心を喚起させることができました。



宅配サービスの価値を広めることで、リターナブル商品拡大の可能性もある。

宅配は、来店のお客さんがつけない消費者やリターナブルびんが重たくて持ち帰ることができない消費者にとって、役に立つ便利なシステムです。

今回のキャンペーンの取組でも、宅配が機能した事例が確認できました。具体的に何がリターナブル商品であるかを明確にすることで、リターナブル商品が果たす環境保全上の意義をPRすること、さらにはあきびんの受け入れ体制を確保し、宅配システムの価値をアピールすることで、リターナブル商品が拡大する可能性があると思われます。



▲キャンペーン対象商品に添付したシール

キャンペーン期間中にシール10枚を集めたカード持参のお客様にショッピングバッグをプレゼントしました。

◀キャンペーン対象商品とキャンペーンツール

▲配達商品のあきびんを保管するボックス

リターナブルびんの販売・回収状況

びんの種類	店頭販売			宅配システム		
	販売数(本)	回収数(本)	回収率(%)	販売数(本)	回収数(本)	回収率(%)
一升(1.8L)びん	884	456	51.6	2,030	1,662	81.9
ビール大びん	1,775	1,708	96.2	7,951	8,030	101.0
ビール中びん	2,718	571	21.0	4,616	4,831	104.7
ビール小びん	201	198	98.5	1,023	991	96.9
茅ヶ崎リターナブルワイン	101	35	34.7	69	66	95.7
キッコーゴ丸大豆醤油(1L)	27	30	111.1	13	11	84.6
焼酎Rマークびん(900ml)	10	0	0.0	98	45	45.9
日本酒Rマークびん(720ml)	182	3	1.6	94	28	29.8
日本酒Rマークびん(300ml)	7	1	14.3	9	1	11.1
その他	14	0	0.0	442	254	57.5

調査期間：2006年12月中旬～2007年2月中旬

茅ヶ崎酒販組合

「リターナブルびんを知ってもらうための話題づくりをこれからも続けていきたい！」



イサミ屋酒店 新倉 勇次氏(左)
寺田酒店 水越 勝彦氏(右)
※金森商店 齊藤 直樹氏にもお話を伺いました。

私たち茅ヶ崎の酒販組合では、商工会議所などと協力して、リターナブルびんを推進する活動を、2001年からスタートしました。2003年にはRマークびんの「茅ヶ崎ワイン」を発売し、様々なメディアに取り上げられ注目されたこともあり、好調に売れました。その後も固定客がついて、安定した需要があります。回収率も当初の10%から50%くらいになり、リターナブルの「茅ヶ崎ワイン」が地元で根付いてきたようです。ただし、コンビニの増加とともに酒屋の数も減少し、びん入り商品の需要が少なくなってきたことも事実。しかし、せっかく始めたリターナブルびんの推進活動ですから、何とかしたいという思いがあり、市民祭等のイベントでワインの試飲会を開きながら啓発活動を続けてきました。やはり話題づくりが必要なのだと思います。

今回のモデル事業のキャンペーンも、私たちにとっては大きな話題づくりのひとつになりました。リターナブルびんに貼ってあるシールを見て、これは何？とお客さまが聞いてきたり、エコバッグがすぐに品切れになったという状況もあり、確かな反応もありました。ポスターやタウンニュースの広告により、急激に状況が変わるということはありませんでしたが、それなりの啓発効果があったと思っています。

将来的に茅ヶ崎の「タゲリ米」を使った米焼酎をRマークびんで作る、などという話も持ち上がっています。今後もリターナブルびんの推進活動を前向きに継続していくつもりです。



▲タウンニュースに掲載されたキャンペーンの告知

市町村によるリターナブルびん分別収集の効果・効率性調査

収集・選別方法を工夫することで、
リターナブルびんの品質を確保。

このモデル事業では、市町村におけるリターナブルびんの分別収集を把握するために、収集方法、市民への排出指導方法、排出ステーションの状況、資源化施設の状況、びん商や再生資源事業者の関与度合い、収集されたリターナブルびんの不良率を調査しました。その概略は下記の通りです。不良率についてデータの得られた3つの自治体では、いずれも1.0～3.6%の範囲にあります。一般に収集・選別方法に工夫していない自治体の不良率は50%以上と言われていますので、非常に高い成果を上げているといえます。

これらの事例から、分別収集したリターナブルびんの不良率を低減させるには、①市民からの排出段階でリターナブルびんのみを、またはびんを他の容器と分ける、②収集や運搬時にはコンテナに入れる、③収集したリターナブルびんをそのままコンベアに乗せずに手選別を行う、という3点が重要であることがわかりました。



▲目黒区におけるあきびんの回収状況

リターナブルびんの分別収集の促進には、
広報活動の充実を図ることも大切。

今回のモデル事業では、那覇市において、リターナブルびんの分別収集を呼びかけるチラシを作成。新聞折り込み広告として配布し、回収リターナブルびんの品質について効果測定を行いました。結果は、キャンペーン前は2.9%だった不良率が、チラシ配布1週間後・2週間後も2%以下になり、品質の改善が見られました。

この折り込みチラシの内容から、リターナブルびんの分別収集の促進には、「なぜびんのリユースが環境に良いのか」「どの商品がリターナブルびんなのか」「どうして分別収集するのか」「使い終わったびんをどのような方法で排出するのか」を、きちんとアピールすることが重要であることがわかりました。



▲リターナブルびんをアピールする折り込み広告(那覇市)

自治体によるリターナブルびんの分別収集事例調査

自治体	分別区分	排出・運搬形態				不良率平均
		ステーション	排出時	運搬時	運搬車輛	
大和市	リターナルびんのみ	ステーションの規模・形態はまちまち	コンテナ	コンテナ	ロングの平ボディ車(2t)	3.6%
目黒区	リターナルびんとワンウェイびんの区分が同じ	ごみステーションと兼用	コンテナ	コンテナ	アオリ付きの平ボディ車(2t)	1.0%
那覇市	リターナルびんのみ	戸別排出(各家庭の玄関先)	ポリ袋	コンテナ	アオリ付きの平ボディ車(2t)	1.4%(チラシ配布1週間後) 1.7%(チラシ配布2週間後)
京都市	スーパーなどの店頭で設置された専用の回収ボックスに排出。これらのびんの収集はびん商が行い、市は委託金を支払っている。収集車輛は平ボディ車(2t)。					—

調査期間：2006年12月上旬～2007年2月上旬

那覇市役所環境部

「びんをくり返し使うという意識が、
海に囲まれた沖縄では根付いている」



クリーン推進課 課長 仲本 安和氏(左)
クリーン推進課 施設管理G 主幹 清崎 浩氏(右)
※環境政策課 課長 来間 淳氏にもお話を伺いました。

那覇市では新焼却炉稼働を機に、2005年の12月1日より、「燃やすごみ」と「燃やさないごみ」と「資源化物」をしっかりと分別して回収するようになりました。あきびんについては、袋詰めされたリターナブルびんとワンウェイびんをアオリ付きの平ボディ車で収集する方式を実施。それまではパッカー車により、缶などと混載して収集していました。収集したびんはリサイクルプラザに運ばれ、最初にリターナブルびんが抜き取られ、ワンウェイびんは3色に選別されます。コンベアを使わず、すべて手選別です。作業は福祉団体の障害者の方々に協力してもらい、丁寧に選別されています。市民に新方式の分別収集を理解してもらうために、説明会も実施してきました。その甲斐あって、リターナブルびんの品質は大幅にアップしています。

今回のモデル事業では、折り込みチラシによりリターナブルびんをアピールしましたが、市民にとっては、すでに行ってきたことの確認になったように思います。沖縄の人は、地元でつくられる泡盛のびんがくり返し使われることを、感覚的にわかっているようです。沖縄には製びんメーカーはありません。基本的に沖縄で回収されたリターナブルびんは、県内で循環しています。海に囲まれた沖縄ならではの資源を大切にすることを、これから先も伝えていきたいですね。そのためにも、市民への啓発活動は随時行っていくと思っています。



▲あきびんの選別状況と回収車輛